

所員活動一覧（2022年4月1日～2023年3月31日）

荒木 浩

● 著書

Japanese Myths & Legends: Tales of Heroes, Gods & Monsters, Jun'ichi Isomae (introduction), Hiroshi Araki (introduction), Gouranga Charan Pradhan (translator) and J. K. Jackson (General Editor) eds., Flame Tree publishing, February 2023, 416 pages.

『「国際日本研究」の新展開——ヨーロッパとの対話から』（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理]）国際日本文化研究センター 2023年3月 132頁

● 論文

「〈唐物〉としての「方丈草庵」——維摩詰・王玄策から鴨長明へ」『アジア遊学』275 「唐物」とは何か——舶載品をめぐる文化形成と交流』勉誠出版 2022年10月 230頁～244頁（招待論文）

「〈古典の中の地球儀〉という視界——日本古典文学研究と国際ネットワークのシンクロニシティ」『跨境 日本語文学研究』15号 高麗大学校日本研究センター 2022年12月 23頁～39頁（招待論文・査読付き）

“Introduction to Japanese Mythology,” Jun'ichi Isomae and J. K. Jackson (General Editor) eds., *Japanese Myths & Legends: Tales of Heroes, Gods & Monsters*, Flame Tree publishing, February 2023, pp. 18–36.

「シンポジウム「徒然草の視界」を終えて」『中世文学』67号、2022年6月 1頁～4頁（招待論文・査読付き）

● その他の執筆活動

エッセイ「日文研三十五周年、という刻印」『日文研』67号 国際日本文化研究センター 2022年9月

書評「「本格日本論142年経て翻訳」（F. A. ヨンケル・フォン・ランゲック著、八木聖弥監修、熊谷知実翻訳『瑞穂草 京都療病院初代外国人医師の日本文化論』文理閣）」『京都新聞』2022年12月9日

「開会挨拶——タイムズスクエアの日文研」磯前順一、タラル・アサド、酒井直樹、ゴウランガ・チャラン・プラダン編著『ポストコロニアル研究の遺産——翻訳不可能なものを翻訳する』人文書院 2022年12月

「はじめに」『「国際日本研究」の新展開——ヨーロッパとの対話から』（著書欄参照）

「epilogue「国際日本研究」を展望する」『「国際日本研究」の新展開——ヨーロッパとの対話から』（著書欄参照）

磯田 道史

●著書

『歴史とは靴である』講談社 2022年4月 175頁

『日本史を暴く 戦国の怪物から幕末の闇まで』中央公論新社 2022年11月
237頁

『徳川家康—弱者の戦略』文藝春秋 2023年2月 191頁

●その他の執筆活動

「磯田道史のうなぎの細道」(連載4回)『うなぎ百撰』2022年春号 全国鰻蒲
焼商組合連合会 2022年4月～2023年1月

インタビュー「為政者の自滅「歴史の教訓」」『日本経済新聞』2022年4月10日

「磯田道史の古今をちこち」(連載12回)『読売新聞』2022年4月13日～2023
年3月8日

書評「今週の本棚」(連載9回)『毎日新聞』2022年4月23日～2023年3月
4日

対談「歴史から学ぶ! 浜松のために今商人ができること(徳川家広と)」『第
116回浜商OB・OGまつり』浜松商業高等学校同窓会 2022年6月

対談「甲賀と伊賀の忍者学(山田雄司と)」『第14回甲賀流 忍者検定』甲賀忍
者研究会 2022年6月

インタビュー「読み比べ、さかのぼって分析」『産経新聞』2022年7月14日

インタビュー「歴史現象の裏にある法則を考えることが大切(影山明伸と)」
『商工ジャーナル』48巻8号 商工中金経済研究所 2022年8月

インタビュー「(観戦記)歴史学者・磯田道史さん 第104回全国高校野球」
『朝日新聞』2022年8月15日

対談「茶園対談(千宗屋と)」『芸術新潮』2022年10月号 2022年9月

インタビュー「土木は歴史から何を学ぶべきか(高橋良和と)」『土木学会誌』
107巻9号 土木学会 2022年9月

「(交遊抄)利休さんのご子孫 磯田道史」『日本経済新聞』2022年9月17日

対談「トッドの理論と歴史研究のこれから(鹿島茂と)」『ゲンロンカフェ』
2022年10月

対談「第74回正倉院展 協賛記念 特別対談「伝承とサステナビリティー」
(小河善美と)」『読売新聞』2022年10月29日

対談「“あけぼのの国”を照らせば日本史が見えてくる。(澤田瞳子と)」『潮』
2022年11月号 潮出版社 2022年11月

対談「スペシャル対談「こうしろ、家康」(徳川家広と)」『週刊現代』2023年
1月28日号 2023年1月

対談「新春対談 岸田文雄首相×歴史学者・磯田道史さん(岸田文雄と)」『産
経新聞』2023年1月1日

(34)

対談「2023年新春対談企画（安部龍太郎）」『北國新聞』2023年1月1日
「その人生が令和の日本に示すもの（特集 徳川家康—知られざる「真価」）」
『歴史街道』418号 PHP 研究所 2023年2月
「その人生が令和の日本に示すもの（特集 徳川家康—知られざる「真価」）」
『歴史街道』418巻 PHP 研究所 2023年2月
対談「第26回 菜の花忌シンポジウム 生誕100年 司馬作品を未来へ（安部龍
太郎、木内昇、門井慶喜と）」『週刊朝日』2023年3月17日増大号 2023年
3月
対談「徳川家康を暴く—弱くても勝てたのはなぜか？（徳川家広と）」『文藝
春秋』101巻4号 2023年3月
インタビュー「どうする家康 大検証 磯田道史が暴く「ほんとうの徳川家康」」
『週刊文春』2023年3月9日号 2023年3月

磯前 順一

● 著書

『公共宗教論から謎めいた他者論へ』春秋社 2022年10月 418頁
『ポストコロニアル研究の遺産—翻訳不可能なものを翻訳する』（タラル・ア
サド、酒井直樹、ゴウランガ・チャラン・プラダンと共編著）人文書院
2022年12月 347頁

Japanese Myths & Legends: Tales of Heroes, Gods & Monsters, Jun'ichi Isomae
(introduction), Hiroshi Araki (introduction), Gouranga Charan Pradhan (translator)
and J. K. Jackson (General Editor) eds., Flame Tree Publishing, February 2023,
416 pages.

● 論文

「Without You～あなたのいない世界を生きて」『別離の悲しみとともに生きる～
痛みを知るといふこと～』本願寺出版 2022年7月 113頁～186頁

“Anthoropology of Religion,” *International Handbook of Practical Theology*, De
Gruyter, September 2022, pp. 601–615.

「第1章 翻訳不可能なものを翻訳すること—ポストコロニアル研究の総括」
『ポストコロニアル研究の遺産—翻訳不可能なものを翻訳する』（著書欄参
照）33頁～95頁

“Introduction to Japanese Mythology,” Hiroshi Araki, J. K. Jackson (General Editor)
eds., *Japanese Myths & Legends: Tales of Heroes, Gods & Monsters*, Flame Tree
publishing, February 2023, pp. 18–36.

● その他の執筆活動

書評「梅原の仏教研究は「哲学」足り得たか」（菅原潤『梅原猛と仏教の思想』
法蔵館）『週刊読書人』3449号 2022年7月

インタビュー「オピニオン論点「宗教が怖い」日本社会（小国綾子と）」『毎日新聞』 2022年12月9日

伊東 貴之

●論文

「明清思想與禮教——明清交替與東亞的思想世界」『文化詮釋與諸種傳統之交涉』臺灣・國立中央研究院・中國文哲研究所 2022年10月 51頁～70頁（査読付き）

「日本“二戰”後中国哲学、思想史研究中比較思想的觀點——兼論問題的提出」『日本哲学与思想研究』2020号 清華大学出版社 2022年10月 180頁～186頁（依頼論文・査読付き）

「第10章：経世学の展開と考証学の隆盛——明末清初期から清代の学術と思想」『アジア人物史・第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ [16～18世紀]』集英社 2022年12月 600頁～669頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

（翻訳）「『朱子語類』卷四「論人物之性氣質之性」篇訳注（三）37～41条」（林文孝、恩田裕正、松下道信と）『中国哲学研究』32号 2022年6月

書評「「言語」の壁／「言語」の夢、孤絶と友愛」（阿部亘『李贄——明末〈異端〉の言語世界』早稲田大学出版部）『図書新聞』3549号 2022年7月

エッセイ「「文理」会通の夢——総研大の改革に臨んで」『日文研』67号 国際日本文化研究センター 2022年9月

書評「松野敏之『朱熹『小学』研究』汲古書院」『新しい漢字漢文教育』73号 全国漢文教育学会／研文社 2022年11月

「人文精神の世界からも、巨匠が退場！——習近平政権・異例の三期目、一強体制と海峡兩岸の行方【2022年中国文学・文化年末回顧】」『図書新聞』3572号 2022年12月

書評「Yuxin Lü, *Polity, Civilization and Nationalism: Political Thoughts in Tokugawa Japan* (Hong Kong: Hong Kong Chinese University Press)」『The Chinese Historical Review』29巻2号 Taylor & Francis Group 2022年12月

「序四 東亜文化交渉學及國際日本研究先驅」『跨國界的文化傳釋——朱舜水與近代中日人物的文明史觀論』寧波出版社 2022年12月

事典項目執筆「新儒学（新儒教）と啓蒙」『啓蒙思想の百科事典』丸善出版 2023年2月

井上 章一

●著書

『ふんどしニッポン 下着をめぐる魂の風俗史』朝日新聞出版 2022年5月

326 頁

『ヌードの東アジア 風俗の近代史』（斎藤光と共編著）淡交社 2023年3月

432 頁

●論文

「ヌードの東アジア」『ヌードの東アジア 風俗の近代史』（著書欄参照） 11
頁～38 頁

●その他の執筆活動

「日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2021 人類・いのち・万博—1970 から
2025 に向けて（西尾章治郎、ウスビ・サコ、山極壽一、吉田憲司、中牧
允と）」『季刊 民族学』46 卷（通巻 180 号）2 号 公益財団法人千里文化財
団 2022 年 4 月

「女になった英雄たち」（連載 5 回）『婦人公論.jp』中央公論新社 2022 年 4 月～
6 月

「京都の端から、こんにちは」（連載 12 回）『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』
国際日本文化研究センター 2022 年 4 月～2023 年 3 月

「万博とその時代」（連載 23 回）『産経新聞』（夕刊）2022 年 4 月 6 日～2023
年 3 月 15 日

「第 4 回日文研—京都アカデミックブリッジ「京都の学を語ろう 京都大学創
立 125 年」（稲葉稜、吉田憲司、光平有希と）」『京都新聞』2022 年 4 月 15 日

書評「この人に訊け！」（連載 6 回）『週刊ポスト』2022 年 5 月～2023 年 3 月
書評「「オスマン帝国支えた宮廷史」（小笠原弘幸『ハレム』新潮社）」『日本経
済新聞』2022 年 5 月 7 日

解説「佐藤賢一『ナポレオン 1 台頭篇』（集英社文庫）」集英社 2022 年 6 月
インタビュー「開運パワースポット 京都に眠る 7 つの謎」『プレジデント
MOOK』2022 年 6 月

インタビュー「AV 新法成立でも終わらぬ議論 知識人 4 人が考える「AV の今
と未来」」『週刊ポスト』2022 年 7 月 1 日号 2022 年 6 月

インタビュー「続くマスク生活 コロナで美意識は変わったか」『朝日新聞デジ
タル』2022 年 6 月 25 日

インタビュー「週刊図書館」『週刊朝日』2022 年 7 月 15 日号 2022 年 7 月

インタビュー「ふんどしニッポン 著者の井上章一さん」『京都新聞』2022
年 7 月 9 日

インタビュー「洋服の下の「ふんどし」」『聖教新聞』2022 年 8 月 18 日

インタビュー「この著者に注目！」『歴史街道』2022 年 10 月号 PHP 研究所
2022 年 9 月

インタビュー「錦繡と古刹の「奥」京都を歩く」『サライ』2022 年 10 月号 小
学館 2022 年 9 月

(37)

(38)

- 「Corbillard de type sanctuaire」(翻訳)『JAPARCHI』JAPARCHI (Web) 2022年9月(フランス語)
- 「職場恋愛のゆくえ」『公研』10月号 公益産業研究調査会 2022年10月
- 「女流陶芸公募展55周年記念対談会「京都まみれ 陶芸まみれ」(外館和子と)」『2022 女流陶芸』女流陶芸 2022年10月
- インタビュー「アントニオ猪木さんを考える」『読売新聞』2022年10月19日
- インタビュー「日本人は「和を以て貴しとなす」民族か」『すきっと』39号 天理教道友社 2022年12月
- 「必然性があれば脱ぐ」『近時新聞』第50号記念増大号 特定非営利活動法人 京都龍馬会 2022年12月
- インタビュー「生誕100年 司馬遼太郎の現在地」『週刊朝日』2023年1月6-13日合併号 2022年12月
- 「狸と精神」安井眞奈美、ローレンス・マルソー編著『想像する身体 下巻：身体の未来へ』臨川書店 2022年12月
- 「ディスカッション 性器崇拜の時空間 「狸の金玉」を中心に」安井眞奈美、ローレンス・マルソー編著『想像する身体 下巻：身体の未来へ』臨川書店 2022年12月
- インタビュー「「優勝」を「アレ」呼び…阪神・岡田監督の狙いは? (論の芽)」『朝日新聞』2022年12月6日
- 「選評 空想をかきたてる多角的視点」平山周吉『満洲国グランドホテル』(芸術新聞社)『遼』2022年冬季号(第82号) 公益財団法人司馬遼太郎記念財団 2023年1月
- 「4人の達人「わたしの流儀」(有賀薫、高野秀行、上野誠と、大和ハウス文化フォーラム誌上企画)『文藝春秋』2023年3月号 2023年2月
- 「嵯峨の景色にいやされて」『京都市立嵯峨小学校創立百五十周年記念誌』京都市立嵯峨小学校創立百五十周年記念事業実行委員会 2023年2月
- 書評「料亭・通信…僧が担った営み」(桜井哲夫『阿弥衆』平凡社)『日本経済新聞』2023年2月25日
- 「あとがき」『ヌードの東アジア 風俗の近代史』(著書欄参照)
- 講演「司馬遼太郎の歴史観と「鎌倉殿」」『姫路文学館紀要』26号 姫路文学館 2023年3月
- インタビュー「京都わたし流(上)」『読売新聞』(夕刊) 2023年3月16日
- インタビュー「京都わたし流(下)」『読売新聞』(夕刊) 2023年3月23日
- 「文化庁移転記念鼎談「文化息づく京で新時代」(重森三果、池坊専宗と)」『京都新聞』2023年3月27日

牛村 圭

●論文

「比較文学で明治期陸上競技を読む」『体育史研究』40巻 体育史学会 2023年3月 69頁～82頁（査読付き）

「「文明の裁き」による総括をかえりみる」『偕行』858号 2023年3月 50頁～57頁（査読付き）

“Joseph C. Grew, Ten Years in Japan (1944),” *Masterpieces on Japan by Foreign Authors*, Springer, March 2023, pp. 141–146.

榎本 渉

●その他の執筆活動

「中国宋・元文化の受容 日本の社会に与えた影響は何か」岩城卓二、上島享、河西秀哉、塩出浩之、谷川穰、告井幸男編著『論点・日本史学』ミネルヴァ書房 2022年8月

「コロナの隙について調査旅行」『日文研』67号 国際日本文化研究センター 2022年9月

「訳経僧靈山」岡美穂子編『「つなぐ世界史」1古代・中世』清水書院 2023年3月

大塚 英志

●著書

『シン・論—おたくとアヴァンギャルド』太田出版 2022年5月 260頁

『まんがでわかる縦スクロールまんがの描き方』（砂威、浅野龍哉と共著）KADOKAWA 2022年9月 292頁

『まんが表現教育論—実験と実践』（山本忠宏と共著）太田出版 2023年2月 248頁

●論文

“Rediscovery of “the People’s manga”: historieta as “folklore Culture”, ” *Dojin Journal*, 2022. No. 2, International Research Center for Japanese Studies, Project Promotion Office, March 2022, pp. 35–39.

“Essay on the Historieta: A Struggle Between Urban Folklore and Fordism,” *Dojin Journal*, 2022. No. 2, International Research Center for Japanese Studies, Project Promotion Office, March 2022, pp. 71–79.

●その他の執筆活動

インタビュー「(耕論) 女性と戦争」『朝日新聞』 2022年6月9日

「絵巻物とまんがの「約束事」を知る」『図書館教育ニュース』2022年8月8日号 少年写真新聞社 2022年8月

(39)

「口絵解説「稲生家妖怪傳巻物」『日本研究』65号 国際日本文化研究センター
2022年10月

インタビュー「ロマン主義殺しと工学的な偽史」『文藝』2023春号 河出書房
新社 2023年1月

「口絵解説「桃太郎絵巻」『日本研究』66号 国際日本文化研究センター 2023
年3月

楠 綾子

●著書

『世界の日本研究2022』（松木裕美と共編著）国際日本文化研究センター 2023
年3月 116頁

●論文

“US Policy for the Occupation of Japan and Changes to It,” *Modern Japan’s Place in
World History: From Meiji to Reiwa*, Springer, March 2023, pp. 111–121.

「多数講和と寛大な講和—日本の構想と選択」『サンフランシスコ講和と東ア
ジア』東京大学出版会 2022年3月 37頁～74頁

●その他の執筆活動

インタビュー「クロスレビュー日本のすがた「世界で何位？」から考える」『朝
日新聞オンライン』2022年6月21日

「規範の衝突と国際学術交流」（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白
石恵理]）『「国際日本研究」の新展開—ヨーロッパとの対話から』国際日本
文化研究センター 2023年3月

(40)

倉本 一宏

●著書

『現代語訳 小右記14 千古の婚儀頓挫』14（編）吉川弘文館 2022年4月
300頁

『平氏—公家の盛衰、武家の興亡』中央公論新社 2022年7月 288頁

『現代語訳 小右記15 道長薨去』15（編）吉川弘文館 2022年10月 360頁

『日本古代氏族研究叢書6 藤原氏の研究（普及版）』雄山閣 2022年12月
229頁

●論文

『御堂関白記』古写本を書写した「某」『日本歴史』896号 吉川弘文館 2023
年1月 106頁～114頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「壬申の乱」岩城卓二、上島享、河西秀哉、塩出浩之、谷川穰、告井幸男編著
『論点・日本史学』ミネルヴァ書房 2022年8月

「『小右記』に見る疫病と日本人の源流」『週刊東洋経済』2022年12月10日号
2022年12月 44～45頁

フレデリック・クレインス

●著書

『三浦按針の謎に迫る—家康を支えたイギリス人臣下の実像』（森良和、小川秀樹と共編著）玉川大学出版部 2022年7月 338頁

『散りぬべき時』（三浦麻乃、府高航平と共著）国際日本文化研究センター
2023年3月 40頁

●論文

「オランダ商館のためにも尽力した「按針」」『三浦按針の謎に迫る家康を支えたイギリス人臣下の実像』玉川大学出版部 2022年7月 203頁～232頁
（招待論文）

●その他の執筆活動

「京都人が褒める時（現代のことば）」『京都新聞』 2022年6月7日

エッセイ「江戸時代のミイラ熱」『日本関係欧文史料の世界』国際日本文化研究センター（Web） 2022年6月

エッセイ「三浦按針の数奇な人生に迫る！」『日本関係欧文史料の世界』国際日本文化研究センター（Web） 2022年6月

エッセイ「フロイスの見た秀吉の大坂城」『日本関係欧文史料の世界』国際日本文化研究センター（Web） 2022年6月

「お盆と万霊節（現代のことば）」『京都新聞』 2022年8月9日

「歴史を紐解く—大阪の悲劇的な屏風」『日本関係欧文史料の世界』国際日本文化研究センター（Web） 2022年8月

「スカッキ著『健康的飲料論』に掲載された日本製熱燗道具図（ローマ、1622年）」『日文研』67号 国際日本文化研究センター 2022年9月

「京町家のある風景（現代のことば）」『京都新聞』 2022年10月17日

「家康と十七世紀のグローバリズム—鎖国以前の幕府の外交」『NHK大河ドラマ歴史ハンドブック どうする家康—徳川家康と家臣団たちの時代』NHK出版 2022年11月

「世界で最も美しい庭園（現代のことば）」『京都新聞』 2022年12月12日

エッセイ「西洋に伝わった関ヶ原の戦い」『日本関係欧文史料の世界』国際日本文化研究センター（Web） 2023年2月

「蜻蛉日記と京ことば（現代のことば）」『京都新聞』 2023年2月28日

(41)

タイモン・スクリーチ

- 著書

『東京前傳——徳川幕府与江戸城（東京前傳：徳川幕府與江戸城）』浙江人民出版社 2022年8月 234頁

- その他の執筆活動

「epilogue「国際日本研究」を展望する——Prospects for “Global Japanese Studies”」（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理]）国際日本文化研究センター 2023年3月

（翻訳）「「国際日本研究」を展望する」（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理]）『「国際日本研究」の新展開——ヨーロッパとの対話から』国際日本文化研究センター 2023年3月

関野 樹

- 論文

“Description and Temporal Positioning of Historical Events and Periods by Using Links Between Temporal Resources,” *2022 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)*, Tucson, AZ, USA, 2022, pp. 1–6, doi: 10.23919/PNC56605.2022.9982788. (査読付き)

(42)

「HuTime プロジェクトにおける中国暦基盤データの構築」『情報処理学会シンポジウムシリーズ じんもんこん 2022 論文集』2022 巻1号 情報処理学会 2022 年12月 241頁～248頁 (査読付き)

戦 暁梅

- その他の執筆活動

「今、振り返る富岡鉄斎」『京都新聞』2023年1月1日

インタビュー「人コミュ通信 vol. 20 「近代日中美術交渉の歴史を紐解く——戦暁梅先生にお話をうかがってきました（郭佳寧と）」『国際日本文化研究センターウェブサイト』国際日本文化研究センター 2023年2月

瀧井 一博

- 著書

『大久保利通——「知」を結ぶ指導者』新潮社 2022年7月 526頁

『増補 文明史のなかの明治憲法——この国のかたちと西洋体験』筑摩書房 2023年3月 360頁

『明治維新と大衆文化』（アリスティア・スウェールと共編著）思文閣出版 2023年3月 336頁

●論文

“The Emperor as Captive of the Constitution,”『世界の日本研究 2022』国際日本文化研究センター 2023年3月 27頁～32頁（査読付き）

「文明開化の国家構想—大久保利通の国家思想に寄せて」『明治維新と大衆文化』思文閣出版 2023年3月 219頁～240頁

●その他の執筆活動

「歴史手帖 知の政治家としての大久保利通」『日本歴史』第887号、2022年4月号、吉川弘文館、18頁～19頁

「政治学の古典を読む（39）ヨーロッパ統一の歴史的前提（ヘルムート・コーイング『ヨーロッパ法文化の流れ』ミネルヴァ書房、1983年）」『究』第134号、2022年5月号、ミネルヴァ書房、44頁～45頁

「Pilgerfahrt zu Lorenz von Stein und AOKI Shūzō」（翻訳）宮田奈奈（企画・監修）『プロイセン気質の日本人—明治の外交官・青木周蔵の横顔』久米美術館 2022年4月（ドイツ語）

政治学の古典を読む（40）ユートピアニズムとリアリズム（E・H・カー著、原彬久訳『危機の二十年—理想と現実』岩波文庫、2011年）

『究』137号、2022年8月号、ミネルヴァ書房、44頁～45頁

「慈母としての政治家」大久保利通」、WEB版『考える人』、2022年7月27日
<https://kangaeruhito.jp/article/609123>

「岡本隆司『曾国藩「英雄」と中国史』刊行によせて 文明の傀儡（くぐつ）としての「英雄」、WEB版『B面の岩波新書』

https://www.iwanamishinsho80.com/post/takii_kazuhiro

「政治学の古典を読む（41）東洋道徳と生活世界のなかの立憲主義（佐々木惣一『立憲非立憲』講談社学術文庫、2016年）」『究』第140号、2022年11月号、ミネルヴァ書房、44頁～45頁

「政治学の古典を読む（42）国家的法観の彼方へ（オイゲン・エールリッヒ著（河上倫逸、マンフレート・フーブリティ共訳）『法律的論理』、みすず書房、1987年）」『究』第143号、2023年2月号、ミネルヴァ書房、44頁～45頁

平松 誠

●論文

「アメリカを中心とした都市社会学の方法論的展開—計量手法の発展に焦点を当てて」『日本都市社会学年報』40巻 日本都市社会学会 2022年9月 174頁～189頁（査読付き）

(43)

エドワード・ボイル

● 著書

Geo-Politics in Northeast Asia, edited with Akihiro Iwashita and Yong-Chool Ha, Routledge, August 2022, 264 pages.

『日本の境界——国家と人びとの相克』（池炫周直美と共編著）北海道大学出版会 2022年11月 200頁

（編集）*Japan Review* vol. 37 (2022), International Research Center for Japanese Studies, December 2022

● 論文

“Lapped by the Tide: Borders of Memory on the island of Peleliu, Palau,” *Frontiers of Memory in the Asia-Pacific Difficult Heritage and the Transnational Politics of Postcolonial Nationalism*, Hong Kong University Press, August 2022, pp. 27–44. (査読付き)

“Introduction: Geo-Politics in Northeast Asia,” Iwashita Akihiro and Edward Boyle, *Geo-Politics in Northeast Asia*, Routledge, August 2022, pp. 1–26. (査読付き)

“Conclusion: Reflecting on Regional Community in Northeast Asia,” Iwashita Akihiro and Edward Boyle, *Geo-Politics in Northeast Asia*, Routledge, August 2022, pp. 214–226. (査読付き)

(44)

「日本の境界・国境を問う」『日本の境界——国家と人びとの相克』（著書欄参照）1頁～12頁（査読付き）

“Border Control and the Migration Policy Puzzle in Japan,” Michael J. Carpenter, Melissa Kelly and Oliver Schmidtke, eds., *Borders and Migration: The Canadian Experience in Comparative Perspective*, University of Ottawa Press, January 2023, pp. 273–294. (査読付き)

● その他の執筆活動

エッセイ「「記憶の境界」からみる沖縄のいま」『日文研』67号 国際日本文化研究センター 2022年9月

「結びにかえて」『日本の境界——国家と人びとの相克』（著書欄参照）

松木 裕美

● 著書

『世界の日本研究2022』（楠綾子と共編著）国際日本文化研究センター 2023年3月 116頁

● 論文

「イサム・ノグチの空間芸術——危機の時代のデザイン（2021年度日本造園学会賞受賞者業績要旨）」『ランドスケープ研究』86巻2号 日本造園学会 2022年7月 163頁～164頁（依頼論文）

「フランス国ペイ・ド・ラ・ロワール地方の日本庭園保全についての調査」『都市緑化技術』120号 都市緑化機構 2022年12月 18頁～19頁（依頼論文）

松田 利彦

●論文

「日本の拡張主義イデオロギーを読み替える——戦時期の東亜聯盟運動に参加した朝鮮人」磯前順一、タラル・アサド、酒井直樹、ゴウランガ・チャラン・プラダン編著『ポストコロニアル研究の遺産——翻訳不可能なものを翻訳する』人文書院 2022年12月 245頁～266頁

●その他の執筆活動

翻刻・解説「東亜共同体論と「内鮮一体」論」宮嶋博史、吉野誠、趙景達編『原典朝鮮近代思想史』第6巻 岩波書店 2022年6月

書評「「甲午改革の本質にある「アイロニー性」——開化派の王権構想と彼らが導入した警察制度の俎上にあげて実証的に論じる」（伊藤俊介『近代朝鮮の甲午改革と王権・警察・民衆』有志舎）『図書新聞』3582号 2023年3月

光平 有希

●論文

“Shūzō Kure’s essay on psychotherapy including music in twentieth-century Japan (1916),” 『History of Psychiatry』, vol. 33–3, SAGE Publications, September 2022, pp. 364–373. (査読付き)

「音楽を纏う身体——近代精神科医療における音楽療法実践をめぐって」安井眞奈美・ローレンス・マルソー編著『想像する身体 下巻：身体の未来へ』臨川書店 2022年12月 139頁～153頁

●その他の執筆活動

『明石博高——京都近代化の先駆者（企画展図録）』（松田清、フレデリック・クレインスと共編著）国際日本文化研究センター 2022年4月

「西洋音楽にうつる『日本』」NICHIBUNKEN NEWSLETTER 2022年11月15日

「日々の『音』に耳と心を寄せて」（京都新聞正月号「日本人の忘れ物」）京都新聞 2023年1月1日

安井 眞奈美

●著書

『想像する身体 上巻：身体イメージの変容』（ローレンス・マルソーと共編著）臨川書店 2022年12月 330頁

『想像する身体 下巻：身体の未来へ』（ローレンス・マルソーと共編著）臨川

書店 2022年12月 342頁

●論文

「妊婦と胎児の身体を可視化する 明治時代初期の錦絵を中心に」『想像する身体 上巻：身体イメージの変容』（著書欄参照） 98頁～123頁

●その他の執筆活動

インタビュー「病、獣、女…妖怪・怪異は何をあらわし、人々は何を恐れてきたのか？—なぜ名前を付け、絵にしてきたのか」『現代ビジネス（オンライン）』講談社 2022年4月

「妖怪研究の成果報告と妖怪データベースの今後」『怪と幽』11巻 KADOKAWA 2022年8月

インタビュー「身体与性別視角下的妖怪 专访日本学者安井真奈美」（中国語）『信睿周报（オンライン）』中国中信出版社 2022年8月

インタビュー「身体与性別視角下的妖怪 专访日本学者安井真奈美」（中国語）『信睿周报』第79期卷 中国中信出版社 2022年8月

「病に向き合う想像力（上） 錦絵が伝える「麻疹」退散」共同通信社配信（『千葉日報』2022年10月30日、『岩手日報』2022年11月5日、『山陰中央新報（島根）』2022年11月10日、『山陽新聞（岡山）』2022年11月10日、『京都新聞』2022年11月23日、『愛媛新聞』2022年12月7日、『東奥日報』2022年12月11日、『埼玉新聞』2023年1月15日）

(46)

「病に向き合う想像力（下） 切実な願いや悩み、人々と共有」共同通信社配信（『秋田魁新報』2022年11月25日、『京都新聞』2022年11月30日、『神戸新聞』2022年12月11日、『山陽新聞』2022年12月21日、『伊勢新聞』2022年12月28日、『埼玉新聞』2023年1月22日）

「あとがき 人文社会科学の今後に向けて」磯前順一、タラル・アサド、酒井直樹、ゴウランガ・チャラン・プラダン編著『ポストコロニアル研究の遺産—翻訳不可能なものを翻訳する』人文書院 2022年12月

「円卓討論 ポストコロニアル翻訳論における翻訳不可能性とは何か？」磯前順一、タラル・アサド、酒井直樹、ゴウランガ・チャラン・プラダン編著『ポストコロニアル研究の遺産—翻訳不可能なものを翻訳する』人文書院 2022年12月

「はじめに 身体イメージの変容を考える」『想像する身体 上巻：身体イメージの変容』（著書欄参照）

「はじめに 身体の未来へ」『想像する身体 下巻：身体の未来へ』（著書欄参照）

「結語にかえて 未来を生き抜く〈身体〉の可能性へ」『想像する身体 下巻：身体の未来へ』（著書欄参照）

インタビュー「第Ⅱ部インタビュー「産科医療における胎児のイメージ」（遠藤誠之と）」『想像する身体 上巻：身体イメージの変容』（著書欄参照）

インタビュー「第Ⅲ部インタビュー「発生学の立場から妖怪「一つ目小僧」を
解明する」(高橋淑子と)』『想像する身体 上巻：身体イメージの変容』(著
書欄参照)

「ディスカッション「「性器崇拜」の時空間—「狸の金玉」を中心に」(井上章
一、ローレンス・マルソーと)』『想像する身体 下巻：身体の未来へ』(著
書欄参照)

インタビュー「赤ちゃん亡くした親へ 小さな産着聖夜に贈る」『読売新聞』
(夕刊) 2022年12月14日

「絵はがきにみる「風俗」としての洗濯」井上章一、斎藤光編著『モードの東
アジア—風俗の近代史』淡交社 2023年3月 353頁～360頁

「コロナ禍の誕生と死」(「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵
理])『「国際日本研究」の新展開—ヨーロッパとの対話から』国際日本文化
研究センター 2023年3月

山田 奨治

● 著書

Beyond Zen: D. T. Suzuki and the Modern Transformation of Buddhism, John Breen
and Sueki Fumihiko eds., University of Hawai'i Press, September 2022, 312 pages.
(査読付き)

Tokyo Boogie-woogie and D. T. Suzuki, University of Michigan Press, June 2022,
216 pages. (査読付き)

● 論文

“D. T. Suzuki and American Popular Culture,” *Beyond Zen: D. T. Suzuki and the
Modern Transformation of Buddhism*, University of Hawai'i Press, September 2022,
pp. 268–272 (査読付き)

● その他の執筆活動

インタビュー「いぶりがっこからストリートダンスまで—文化を守り広める
ために「著作権」ができること」『WORKSIGHT』 2022年8月

インタビュー「(コメント) 安倍氏銃撃後、公共CM一時50倍に「自粛企業は
意図の説明を」『毎日新聞(オンライン)』他掲載(共同通信) 2022年8
月8日

インタビュー「(コメント)「人間」が持ち物なの…? 「怪異・妖怪画像」検索
サイトが神ツール」『withnews』 2022年10月

インタビュー「国内外で話題! 「もちもの」「しぐさ」で検索 創作者を中心
に再注目『怪異・妖怪画像データベース』『ラジオ関西トピックス ラジト
ピ』 2022年12月

「武術の極意を自然現象に喩える」安井眞奈美、ローレンス・マルソー編著

『想像する身体 下巻：身体の未来へ』臨川書店 2022年12月

劉 建輝

● 著書

『「満洲」という遺産—その経験と教訓』（編）ミネルヴァ書房 2022年9月
705頁

● 論文

「顕現と隠蔽—従軍画家の描いた戦時中の中国」瀧本弘之、戦暁梅編『近代中国美術の境界—越境する作品、交錯する藝術家』（アジア遊学269）勉誠出版 2022年5月 246頁～250頁

「反転するモダニズム—租借地大連の都市空間と文化生産」『「満洲」という遺産—その経験と教訓』（著書欄参照） 247頁～257頁

● その他の執筆活動

「学問と遊びを融合した達人—白幡洋三郎さんを悼む」『京都新聞』 2022年4月29日

インタビュー「日本庶民のユーモアに光・日文研「大衆文化」シリーズ完結—劉建輝教授に聞く」『京都新聞』 2022年8月17日

「満洲国が受け継いだ満洲近代の「遺産」」『「満洲」という遺産—その経験と教訓』（著書欄参照）

(48)

「我所認識的嚴紹盪先生」（中国語）『文藝報』 2022年12月

「大連小史」「ミュージカル『洪水の前』プログラム」株式会社オールスタッフ
2022年12月